

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



開祖随感

頼み方次第

どんなに万能な人であっても、一人の力には限りがあります。十人の力、百人の力を借りなくては大きい仕事はできません。それは百も承知でも、人にまかせ、人に頼むのが苦手という人が多いものです。

嫌な顔をされたり、気兼ねしてやってもらうより、自分でやってしまうほうが気が楽だ、と一人で仕事を背負いこんでフウフウ言っている人がいますが、それを見てまわりが同情してくれるかというと、「あの人は、なんでも自分でやらないと気が済まない人だから」といった見方しかしてくれません。

人の力を借りるのは、相手の人に「私は信頼されているんだ。人の役に立てるんだ」という喜びを与え

てあげることにもなるのです。大事なものは、頼み方です。頼み方ひとつで、人を発奮させる材料にもなれば、押しつけられた、とやる気をなくさせることにもなってしまいます。

松下幸之助さんは「私は学校を出ていないから、人がみんな頼もしくみえる。わしはやれんが君ならできるはずだと相談すると、みんな一生懸命になってくれるんですよ」と話されています。信頼して人にまかせるのも礼拝行^{らいはいぎょう}なのです。

(『開祖随感』9, P. 256-257)

Living the Lotus 2020年9月号 (Vol.180)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 長田健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



ともに悲しむ心

立正佼成会会長 庭野日鏡

人の悲しみを悲しむ心情

最初に、詩の一節をご紹介します。福島県の高校で国語の教師をつとめるかたわら、詩人としても活躍する和合亮一さんの、「ともに」という詩です。

「あなたの涙が／わたしに／教えてくれたこと／人は弱い／人は悲しい／人は切ない／だけど／ぬくもりがある／人は人を想う／人は人を愛する／人は人に涙する／あなたも／わたしも／さびしい／だけど／あなたも／わたしも／共に／生きている」(『十万光年の詩』佼成出版社刊)

つらい経験をして悲嘆にくれる人に出会ったとき、私たちはこの詩のように、相手を使い、ときにはともに涙したり、手をとって「いつでもそばにいますよ」と励ましたりします。それは、私たちが人の苦しみに共感して、ともに悲しむことができるという、他の動物にはない懐かしい心情をもつ人間として生まれたからです。

その共感力といえるようなものは、生きること、老いること、病むこと、死を迎えることなどをおして、つらく悲しい気持ちをたくさん味わった人ほど、より発揮されるのだと思います。まして信仰をもつ人であればなおのこと、人の苦しみや悲しみがよくわかり、身につまされるのではないのでしょうか。なぜなら、数学者の岡潔さんの言葉をお借りすれば、「人の悲しみがわかること、そして自分もまた悲しいと感じることが宗教の本質」といえるからです。

そしてその本質は、法華経「如来寿量品」の掉尾を飾る、「何を以てか衆生をして無上道に入り速かに仏身を成就することを得せしめんと」の一句にも示されています。





自他の仏性が輝くように

九月のいまごろのことを、曆のうえでは「白露」といいます。朝の草花に宿った露が、日光をあびて輝くさまのことですが、露には「露の世」という言葉に見られるように、はかない印象もあります。しかし先の一句は、露のようにはかなく思える無常の世にあっても、「悲しみにくれる人がいないように」「だれもが仏性に目ざめて救われるように」と願う、仏の切なる思いを伝えているのです。それはまた、菩薩として人に寄り添う生き方を私たちに示します。

つらい立場の人に寄り添うということでは、釈尊とチューラパンタカ(周利槃特)の逸話がよく知られています。

ひどく物覚えの悪かったチューラパンタカは、出家して三か月がすぎても、教えの一節すら覚えられません。そのために、先に釈尊の弟子になっていた兄から「もう出ていきなさい」と、たしなめられるのです。ところが釈尊は、自分の愚かさを嘆き、泣き沈むチューラパンタカに、一本のほうきを手渡して諭します。これで毎日、周囲の掃除をして「塵を払わん、垢を払わん」と唱えるように、と。

やがてチューラパンタカは、その言葉を覚えると同時に「心の掃除が大事なのだ」と気づいて感激し、ついには釈尊の弟子のなかでも重きをなすようになったのです。

チューラパンタカの心を救い、悲しみや絶望感を喜びに転じさせたのは、ひたすらに仏性を信じて寄り添う、釈尊の大慈大悲から生まれるやさしさにほかならないでしょう。

先ほど「無常の世」といいましたが、私たちは、はるかな過去から生まれ変わり死に変わりするなかで、いま、ここに生かされています。それは、善いことも悪いことも含めた過去の経験を内包しつつ、私たちが仏と同じ「永遠のいのち」を生きているということです。

善も悪もちあわせる私たちの、だれにも共通するのは、仏性という揺るぎない本質です。だからこそ、私たちは自他の仏性が輝くようなふれあい、とりわけ悲しむ人に喜びを与える縁となる実践が、大切だと思うのです。

(『佼成』2020年9月号)





このいのちを人さまのために

ニューヨーク教会
内藤詠子

この体験説法は、2017年10月15日に行なわれた
ニューヨーク教会発足35周年式典で発表されたものです。

本日はニューヨーク教会発足35周年おめでとうございます。このような意義ある日に説法のお役をいただき、私にとって新たな人生のスタートラインに立ち、第一歩を踏み出す記念すべき最高の日となりました。

私は1963年に福島県いわき市で生まれました。私が3歳の時、両親は小学校1年生の姉と私を連れて、頼るあてもなく東京へ引越しをしました。昼のあいだ私を預けて働くために、母は保育園探しに奔走しましたが、10件以上も断られ、半ば諦めかけたとき、私を快く預かってもらえる保育園が見つかったそうです。

次の日から、私は朝6時に保育園の園長先生のお宅に送りどけられ、母が迎えに来る夜9時まで園長先生と一緒に過ごしました。園長先生は夜になると、仏壇に向かいお経をあげるのですが、私はいつも先生の後ろに座りお経を聴いていました。実は、園長先生は立正佼成会の会員だったのです。園長先生が

慈母観音さまのように私を育ててくださったおかげさまで、幼かった頃の私には、寂しさを味わった記憶はまったくありません。それどころか、今でも鮮明に覚えているのは、園長先生が私を我が子のように見守り、可愛がってくださったことです。園長先生と出会えたことは、私にとって、いくら感謝してもきれない、終生忘れることのできない出来事です。

この時の園長先生との出会いを通して、母は立正佼成会へ導かれました。ご命日参拝、道場当番、法座修行と、母は一生懸命教会道場に通っていました。また母は、生涯、園長先生を姉のように慕い、いつも園長先生に心の悩みを聞いていただいていたようです。

着物の絵付け職人だった父の努力で、私が小学2年生になった時、私たち家族は夢の一戸建ての家に住めるようになりました。しかし、そんな幸せな生活もつかの間、2年足らずで父の仕事の景気が悪くなり、仕事を休んでいた母は、再び働きに出るようになりました。

私が小学校5年生になり、姉が高校の寮に入った頃、母は仕事が忙しいという理由で、家に帰って来なくなりました。私は父の夕飯をつくり、帰ってこない母を待ち続けたものでした。日が経つにつれ、父の様子もおかしくなり、家の中はめちゃくちゃでした。孤独な毎日でした。

そして、私が16歳の時のことです。バイクの免許取得のため戸籍抄本を取ると、そこには父だと思っていた人が養父と記載されていたのです。その後、さらに追い打ちをかけるように、母が父以外の人と一緒に暮らしていたことが分かりました。



ニューヨーク教会で説法する内藤さん

母に裏切られたという思いと孤独感がさらに深まっていくなかで、母のことを「これからは母親ではなく、一人の女性として見ていこう」と自分に言い聞かせました。それは、母のいない悲しさ、悔しさ、寂しさを紛らすための手立てでした。それでも、母のことはやはり大好きでした。

その後、母は私を育ててくれた父と離婚し、一緒に暮らしていた人と再婚しました。そんな母から唐突な相談があったのは、私が20歳になった時でした。「喫茶店を経営して私を養って欲しい」と言うのです。あまりに無茶なお願いだと思いながらも「もう一度母と一緒に暮らしたい」という強い思いから、私は喫茶店開業のためにすべてを犠牲にし、ようやく店をオープンさせました。

ところが、オープンして間もなく、母は「夫とよりを戻す」と言って、私のもとから去って行きました。その時は孤独な自分の運命を呪いたくなりました。それでも周囲の人たちから思いがけなくたくさんの応援をいただき、6ヵ月後には地元の商店街で一番繁盛する店になったのです。

しかし、22歳になった時、私は突然病魔に襲われました。病名は腎盂炎でした。医師からは、働き過ぎが原因なのでしばらくは絶対安静が必要と言われ、2ヵ月間入院することになりました。

退院後、母の再婚相手に連れられて、母と私は初めての海外旅行をしました。行先はハワイでした。この旅行で私はすっかりアメリカ好きになりました。「今まで味わってきた悲しみや怒り、恐れ、痛みのすべてから解放されたい。しがらみのない、開放的なアメリカに住みたい」という私の夢は膨らむ一方でした。

そして、私は25歳で喫茶店を閉め、周囲の反対を押し切って渡米し、ニューヨークで暮らし始めました。私の胸はわけもなく自信で溢れていました。しかし、ニューヨークでの現実の生活は、私が考えていたほど甘くはありませんでした。喫茶店経営で貯めたお金

はすぐに底を突き、生活のために働く必要がありました。そして、様々な仕事に就いた後、日系の商社に就職し、永住権取得の支援をしてもらうことができました。

やっとの思いで永住権を取得後、ニューヨークで知り合った日本人男性と26歳で結婚しました。しかし、結婚生活は何か心寂しく虚しさを感じるものでした。彼はよくスピリチュアルな話をしてくれて、私はそんな彼に惹かれていたのですが、結婚後はなぜか常に夫に気を遣い、夫のために嘘の自分を演じているような毎日でした。

日本にいる母はそんな私のことが心配だったでしょう。電話をする度に「ニューヨークにも倭成会があるから行ってみなさい」と繰り返し言われ、しかたなくニューヨーク教会に足を運んだのは、結婚して10年が経った頃でした。しかし、当時は夫との関係を立て直すことより、将来的な自立の道を見つけることで頭がいっぱいで、教えに耳を傾ける余裕はありませんでした。

それから2年後の2001年、私は引越し会社に転職し、社長のパートナーとして日本人マーケットを開拓するために一生懸命働きました。一方、夫とは相変わらず感覚のずれを感じ、夫婦関係は悪化するばかりでした。2005年には母が脳梗塞で他界しました。同じ年の11月、私は離婚を決め、16年間の結婚生活に終止符を打ちました。大事なものを同時に失った寂しさから、自分は生きていても価値のない人間だと思い詰め、気持ちは落ち込む一方でした。

そんな時、私の心を支えてくれたのはニューヨーク教会のメンバーでした。初めは、「お経を唱えれば仏さまが何かしてくれるの?」と反発していたので、耳にも心にも教えは響きませんでした。それでもサンガの仲間が根気よく私の縁になってくださったおかげさまで、人の思いやりを素直に受け入れられない頑な私の心にも、その温かさは沁み入ってきました。心が次第に癒されていくのを感じ、素直になって人の話を聞いてみようという気持ちが湧いてきました。

Spiritual Journey

自分は孤独な境涯なのだと思い込み、それまで苦しんできた私でしたが、サンガの温かさに触れて「皆さんに支えられて生きている」ことを知りました。それは私にとって大きな気づきでした。子どもの頃、保育園の園長先生が母を導いてくださったおかげさまで、私は仏教、立正佼成会、開祖さま、そして会長先生とのご縁をいただきました。そしてそのご縁は、時を経ても私の魂にしっかり宿っていたことを感じました。

2009年、私は医師から腎臓の状態が悪化し、腎機能が30%にまで落ちてしまっていると診断されました。2011年には仕事のストレスが原因で高血圧になり、降圧剤を服用するよう言われていたのですが、保険に入っていなかったため病院に行けず放置していました。そのため腎不全が進行し、とうとう2013年には人工透析の宣告を受けてしまいましたが、それでも私は現実から目を背けて働き続けました。

2014年、私は引越会社の経営者として独立しました。当然、仕事による心身への負担は大きく、私は腎臓へのダメージからついに動けなくなってしまい、その年の8月、ようやく自分の意志で人工透析センターの門を叩きました。医師からは、今後は人工透析を続けながら腎移植の機会を待つように言われました。様々な不安はありましたが、それからは手術が受けられることを願いながら、日々を過ごすようになりました。

サンガの仲間は、私が仕事の悩みを相談すると、いつも私の心に寄り添って話を聞いてくださいました。ある時、「詠子さん、相手を変えることはできないから、あなた自身の見方を少し変えてみない？」と言われ、素直に「そうか!」と思った私は、即実践してみました。すると、見方を変えただけで、自分を苦しめていた相手を受け入れる気持ちが生まれ、苦しくてならなかったことが感謝の対象に変わっていく不思議な経験をしました。実践するとすぐに結果が顕れてきたのです。

大きな病気を抱えながらも、心の変化を感じられる日々が、私にはとても楽しく幸せでした。心が変わって

いくと、周りの人たちから信頼され、相談を持ちかけられるようにもなりました。みんなが私に心を開いてくれることが、私の喜びになっていきました。同時に、この教えを学んで実践すれば、きっと誰もが私のように救われていくのだから、友人たちにも同じように救われて欲しいという気持ちが膨らんでいきました。

私にはこの教えによって救われて欲しいと強く願っていた10年来の友人Aさんがいました。初めのうちは、自分の経験や考えを一方向的に押し付けてアドバイスしようとしていたため、Aさんに嫌悪感を持たせてしまっていました。

その頃、私はニューヨーク教会で夜間に行なわれていた仏教研修会に参加するようになりました。そして研修会を通して三法印・縁起観・十如是の法門を順番に学んでいくうちに、それまで「相手は変えられないわね」「見方を変えてごらんない」と教えていただいていたことが、仏教真理によって裏付けられていることを知ったのです。私は「なるほど!」と感動し、この学びにAさんを誘ってみようと思いました。

そんな時、Aさんから電話がありました。「もう、どうしたらいいかわからない。死にたい」と訴えるAさんに、私は彼女の傷ついた心の奥まで分かっていたつもりで、実は何もしてあげていなかったことをお詫びしました。すると、Aさんは「教会へ行きたい」と言い、全身の力を振り絞るようにして教会に来てくれたのです。

教会に到着した時のAさんは憔悴きった様子で泣いていました。そんなAさんがやっとの思いで話し始めると、藤田教会長さんは優しく包み込むように寄り添い、じっと彼女の話を聴いてくれました。そして教会長さんはAさんに、「あなたのお子さんたちは、素直に伸び伸びと成長して素晴らしいわ。そんな子どもさんを育てたのはあなたでしょ!本当に頑張ってきたのね」と語りかけました。すると、まるで憑き物が落ちたかのように、憔悴していたAさんの表情に明るさが戻ってきたのです。

その様子を目の当たりにし、「こうやって人は救われていくのか!」と、私の心は驚きと感動で震えました。教会長さんの言葉がAさんの心の琴線に触れたのだと思います。しかし、その時の私には、教会長さんがまるで魔法をかけたかのように思えました。「こんなふうに入会し、今は私と一緒に、幸せになるための教えの実践を始めています。このお導きのご縁を契機に私の心は一変し、いただきたいのちを人さまのお役に立てるように使いたいと真剣に思えるようになりました。」

2014年に人工透析を始めた頃、ニューヨークでは8~9年待てば腎移植のチャンスが巡ってくると聞き、私はすぐに登録しました。やがては腎移植のチャンスがあることが、私にとって大きな心の支えになりました。

2017年7月12日、私は教会長さんに今後のことについて相談し、ご指導をいただくため、教会を参拝しました。教会長さんは、「これからは人さまのお役に立ちたいと思う詠子さんがいるのですね。素晴らしいわ。その決意ができていれば、仕事面でも仏さまが守ってくださいるはず。経営者として、みんなから全幅の信頼を寄せてもらえるように、心田を耕す修行のスタートですね」と私を励ましてくださり、最後に「これからは、すべて仏さまにお任せし、人さまのお役に立てる自分づくりに向かって精進すること」と結んでくださいました。

経営者として会社の方向性をどうするか、どうしたら安定した生活を続けられるのか、私の心は将来への不安でいっぱいでした。さらに、腎移植手術に対する恐怖心もあり、いつも心の中に薄雲がかかっているような状態でした。しかし、「すべて仏さまにお任せして精進すること」と、教会長さんからきっぱりと言っていたいただいたおかげさまで、ご指導が心にストーンと落ちると同時に、不安がスーッと消えてなくなりました。

その瞬間、私の中で何かが大きく動き出したような不思議な感覚を味わいました。それはまるで歯車が大きく回転し始め、「ガチャ!ガチャ!」と音を立ててしっかり噛み合っていくかのようでした。その日は、ご本仏さまにお礼を申し上げ帰宅しました。

すると、翌日の7月13日の早朝、ニューヨークの病院から腎移植のドナーが見つかったことを知らせる電話があったのです。それは、9年間待たなければ移植のチャンスには出会えないと言われていた病院からでした。「すべてを仏さまにお任せして精進しよう」と、心が定まった直後のことでしたので、これこそ仏さまのおはからいなのだと思いました。

翌日の7月14日、私は腎臓の移植手術を受けました。ドナーは生後3カ月の赤ちゃんでした。医師からは、移植した腎臓が十分に機能するまで、手術後3カ月間は人工透析を続ける必要があることや、その小さな腎臓はやがて私の体の中で大きく育っていくことが説明されました。しかし、移植した腎臓はすぐに元気に働き始め、透析を受ける必要もなく今日で3カ月が経ちました。

奇跡のような出会いによっていただいたこのいのちを、これからは人さまのために、優しい人になるために、そして自分を人間として高めていくために使いたいと、私はいま心から思っています。

皆さま、本日はご清聴ありがとうございました。



ニューヨーク教会の皆さんと(後段左から4番目)

法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經

分別功德品第十七(後半)

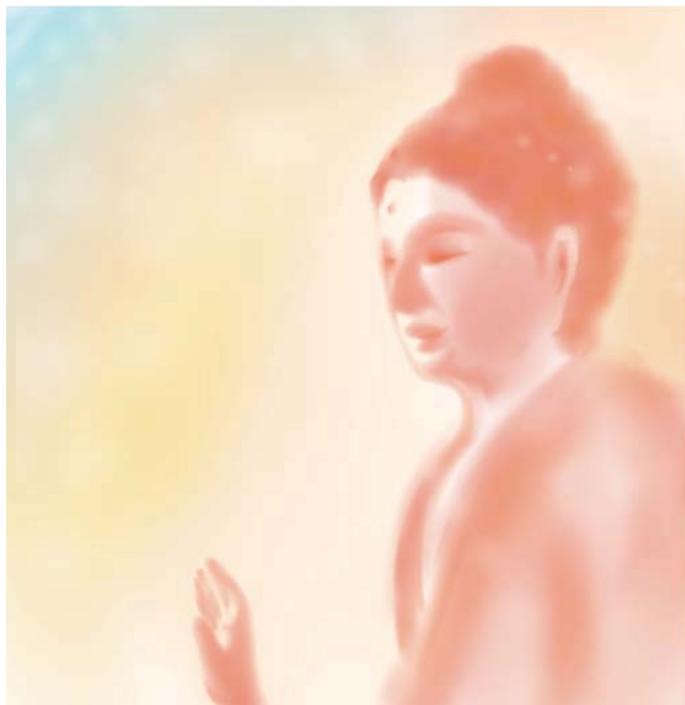
ししんごほん 四信五品

さて、この品に説かれている信仰者の心がけについては、天台大師^{てんだいだいし}によって、分かりやすく記憶しやすいように〈四信五品〉というふうに整理されています。

〈四信〉というのは〈在世の四信〉ともいい、お釈迦さまご在世中における信仰のありかたを四つの段階に分けたものですが、もちろん末世^{まつせ}のわれわれにも、そのまま通用することです。

いちねんしんげ
一念信解……仏さまの生命が無量であることを、一念にでも信解することの大切さです。それが〈諸法実相への目覚め〉であり、一大飛躍であるからです。

りゃくげごんしゆ
略解言趣……一念信解より一歩進んだ段階で、一念に仏の無量寿を信解するばかりでなく、その教えに含まれる大きな意味を、あらまし理解することです。おおづかみにいえば、〈仏さまの寿命が不生不滅であれば、それと一体であるわれわれの^{ぶっしょう}仏性も不生不滅である。ただ、われわれの仏性はいろいろと迷いの雲に閉ざされているために、仏さまとは違った存在と考えられるだけのことである。だから、その迷いの雲を一つ一つとり払っていけば、必ず仏さまと完全に一体になることができるのだ〉という理解に達することです。



こういたせつ
広為他説……略解言趣よりさらに一段上がった、信仰者のあり方です。すなわち、その教えに説かれた真実をほぼ理解するだけでなく、いよいよ進んで、広く法華經の教えを学び、それを心に植え付けて忘れず、その教えに帰依と感謝の真心を捧げ、しかも世の多くの人びとにも勧めて教えを聞かせ、仏道に引き入れてあげることです。

じんしんかんじょう
深信観成……いよいよ仏の無量寿に対する信解が深まって、いつも仏さまが自分と一緒におられるのだということを如実に感じるようになった境地をいいます。こうなれば、仏さまの教えのとおりの世界観・人生観を完成し、常に法悦の世界に住むことができるのです。

〈五品〉というのは、〈滅後の五品〉ともいい、世尊ご入滅後における信仰者のあり方と、その功德を次の五つに分けて説かれているものです。

初随喜……仏の無量寿を聞いて、頭のうえで理解するだけでなく、「ああ、ありがたい」という歡喜の念を起こすことです。これが信仰というものです。このことについては、あらためて次の《^{ずいさくどくほん}随喜功德品第十八》において詳しくお説きになります。

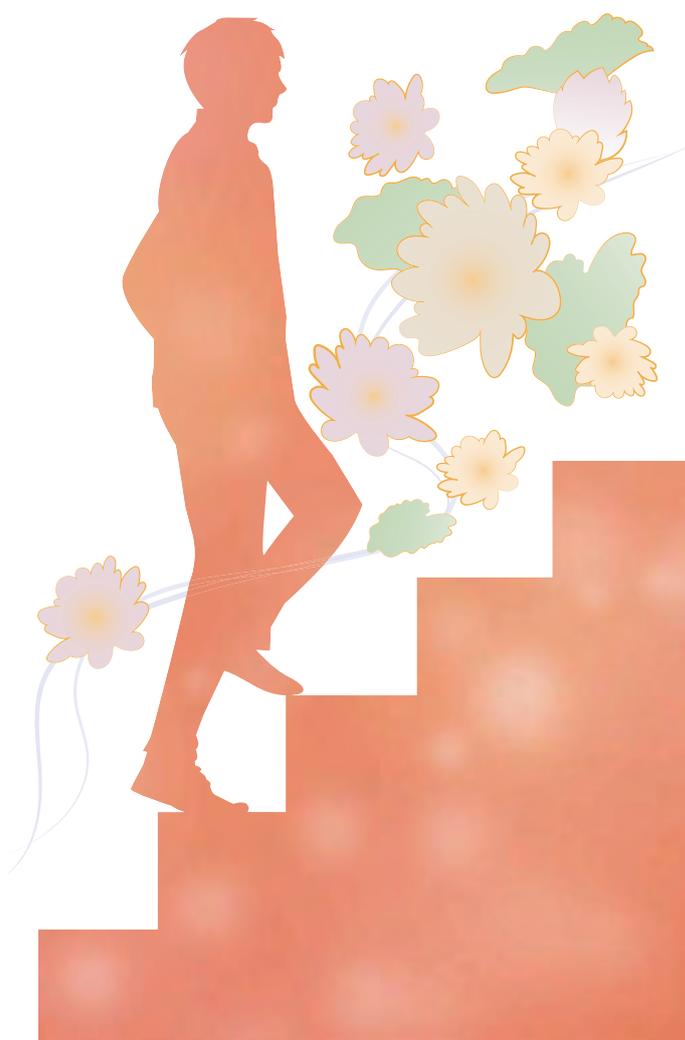
読誦……初随喜を起こしただけでも、すでに真実の信仰を得たといえるのですから、ましてや、その教えを一心に学び、誦^{そら}んじ、しっかり心に保つものは、さらに一歩進んだ段階に入ったわけです。

説法……読誦によって、仏さまの教えのありがたさがしみじみ分かってきますと、それを人にも説いてあげずにはおられなくなります。そうすることによって、自分もますます向上し、人をも教化できるのですから、その功德はさらに大きなものになるわけです。

^{けんぎょうろくど}兼行六度……六度というのは六波羅蜜のことで、この教えを受持し、読誦し、説法するという行に兼ねて、^{ろくはらみつ}六波羅蜜をも行ずるという意味です。そうすることによって、いよいよ菩薩としての境地が高くなっていくわけです。

^{しょうぎょうろくど}正行六度……完全に六波羅蜜を行ずるようになった段階で、こうなれば、いよいよ仏の悟りにも近づいたことになるのです。

(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』
佼成出版社、2016年〔初版 1991年〕、P.176-180)



仏性を信じ、思いやりのふれあいを

9月は脇祖さま報恩会の月です。開祖さまの証明役として、二人三脚で教団を築いてくださった脇祖さまのご遺徳を偲んで、慈悲行の実践をお誓いする日と教えていただきました。

会長先生は『すべてはわが師』の中で、「妙佼先生は慈悲の人であった。その生涯も慈悲ひとすじにつらぬいて生きた人であった」と述べられています。

今月のご法話「ともに悲しむ心」でも、お釈迦さまが周利槃特の仏性を信じて寄り添うお話を引用くださり、すべての人が自らの仏性に目ざめて救われるようにと願い、仏の境地に導き入れる縁になることの大切さをお示しいただきました。

慈悲の生涯の脇祖さまに倣い、人さまの仏性を信じて思いやりのふれあいを心がけたいと思います。

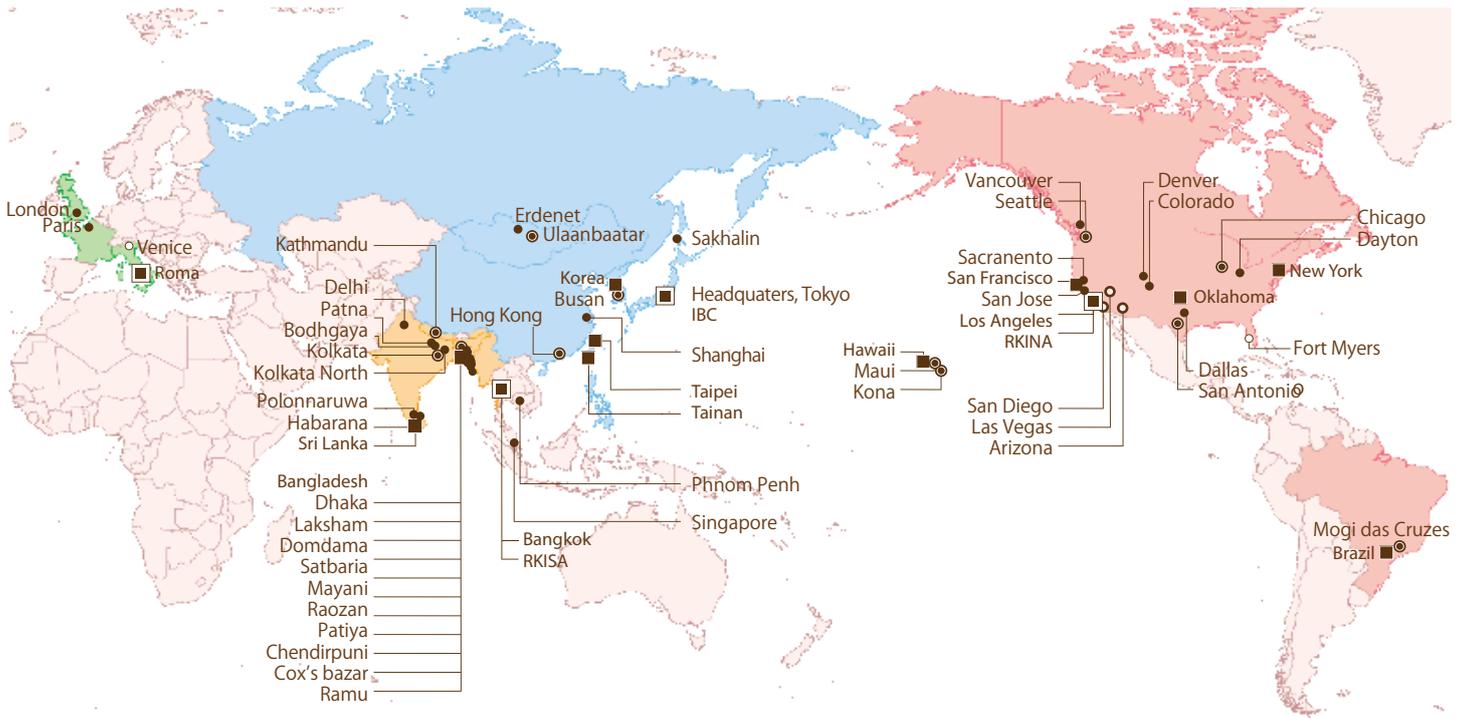
国際伝道部長
齋藤 高市



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp



Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
Email: sangha@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
POBox 33636, CA 90033, USA
TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
TEL: 1-650-359-6951 Email: info@rksf.org
URL: <http://www.rksf.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

- Rissho Kosei-kai of Sacramento**
- Rissho Kosei-kai of San Jose**

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
TEL: 1-212-867-5677 Email: rkony39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
TEL: 1-773-842-5654
Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA
TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437
Email: info@rkina.org URL: <http://www.rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
(Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA
TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745
Email: dharmasanantonio@gmail.com
URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261
Email: rkseattlewashington@gmail.com
URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>
Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

Risho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: kosekaitainan@gmail.com

Risho Kosei-kai South Asia Division

Thai Risho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

Risho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Risho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Risho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Risho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Risho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Risho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Risho Kosei-kai of Singapore

Risho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Risho Kosei-kai International of South Asia

Thai Risho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Risho Kosei-kai of Bangkok

Thai Risho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairisho@gmail.com

Risho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Risho Kosei-kai of Polonnaruwa

Risho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL/FAX: 880-31-626575

Risho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Patiya

China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Chendhirpuni,

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Risho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Risho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Risho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Risho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Risho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Risho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Risho Kosei-kai Friends in Shanghai

Risho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Risho Kosei-kai of Erdenet

Risho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Risho Kosei-kai of the UK

Risho Kosei-kai of Paris

Risho Kosei-kai of Venezia

Risho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.ibt-rk.org>